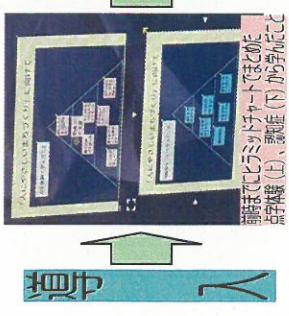


ICT教育通信

令和3(2021)年11月18日
第8号 小都市教育委員会

味坂小学校公開授業 第4学年総合的な学習の時間
「人にやさしいまちづくり」授業者 久保田直哉 先生

【主眼】点字体験、認知症についてまとめたことを基に、ロイロノートを活用して「誰もが安心して生活するために大切なこと」を整理し考えをつくり、考え方を交流したりすることができるようにする。



自分の考えた大切なことを
グループで紹介し合う。

誰もが安心して過ごせるための
大切なことを全体で交流する

（学んだこと）（協議・アンケートより）

- 単元を通して、思考ツールを活用することで、自分の考え方の変化が可視化できていることがよかったです。
- 様々な思考ツールの活用の仕方があることが分かった。
- ノートとタブレットの使い分けがなされていました。

（福永教頭先生（三国川小学校）からの指導・助言より）

- 自分の考え方や新たに課題をつくり、探究の過程を繰り返していくためには、交流において、交流の視点を持たせ、多様な体験を基にした話しを感じさせるようにする。
- ICT活用については、右図のように4つの活用に分け考え、教育課程内と教育課程外での活用のねらいや内容に合わせて使い分けて活用していくとよい。

【タイピングの正しい使い方は、最初が肝心です！】
子どもたちを見ていると、指1～3本でタイピングをしている姿を見かけます。これが習慣づいてしまうと改善が難しいものです。これから先を考えると、今のうちに正しいホームポジション（指の使い方）でタイピングを覚えておく必要があります。各学校での実態の確認と計画的な指導をお願いします。

◆「デジタル・ディバイド（情報格差）」 西日本新聞（R3. 11. 14朝刊）記事を要約

- 情報通信技術（ICT）の恩恵を得られるか否かで生じる格差をデジタル・ディバイド（情報格差）と言う。教育的・社会的・経済的な格差として連鎖する社会問題。
- GIGAスクール構想では全ての中学生に機器を配布し、ネット環境のない家庭を支援する自治体もある。子どもたちのデジタル・ディバイドを是正する願いがあるのだろう。ただし子どもが大人の期通りに使うことは限らない。「習い事から帰宅した子が夜更かして動画を見て困る」という家庭もある。望ましくない使い方をすることがあるので規制が必要。しかし、学校は様々な子どもの境遇に想像をくらせ慎重に規制や制限設定を設けると、全員に程よい規制をするのは難しい。
- 「機器を家に持ち帰らない」や「学校が指示したことで使わない」という規則を設けると、私物のICT機器を有する家庭の子どもだけがネット上の学習機会を得られ、格差の助長になりかねない。自宅でも学びに利用するために、各家庭のルールと見守りが重要。学校が示す規則に加え、機器を何にどのくらい使うかを親子で約束するとよい。学校は配布した機器に施している制限設定を保護者に説明し、家庭での使用状況を開き、学習に有益な情報を多く提供できることが望ましい。
- 教師と保護者が協力し、どんな使い方と成長を期待しているのかを子どもにも伝えたり、どう使いたいのかを子ども自身に考えさせたりすることも大切ではないか。

→ 情報格差を是正し、全ての子どもたちがICTの恩恵を受けることのできるよう、活用状況を把握し、制限と子ども主体のバランスを図っていきたいと思います。

立ち止まって考えることを大切に～子どもたちは「これから時代を生きる人の市民～」

小都市教育委員会 人権・同和教育課 指導主事 久野 智司

教育委員会（学校教育課、教育総務課、人権・同和教育課）では、昨年度後半より定期的に、関係団体と情報交換会を行っています。先日、第6回の情報交換会を行いました。その中で、①タブレット端末を用いた学び合いは考えを深めるために有効であること、②検索等の子どもたちの活用状況を確認し、必要な指導と制限を行うこと、③Wi-Fi通信料負担軽減については国・県に要望を上げていくこと等について意見交換を行いました。
子どもたちに対しても、「デジタル・シティインシップ」といい、上記の新聞記事ともつながるので、良い活用（方法や事例）についても提示していくことが大切です。情報化社会の進展に伴う便利さ・良くなっている面と偏見・差別が混じったこの社会を生きしていく1人の市民としてどう生きていくのかを考えることを「デジタル・シティインシップ」といい、上記の新聞記事とともに持つことにもつながるので、興味をもつながら見てください。

→ 情報格差を是正し、全ての子どもたちがICTの恩恵を受けることのできるよう、活用状況を把握し、制限と子ども主体のバランスを図っていきたいと思います。

（参考資料）

（参考資料）